

提言第6号 栄養剤投与目的に行われた胃管挿入に係る死亡事例の分析

事例3

< 事例概要 >

- ・ パーキンソン病、誤嚥性肺炎の 80 歳代の患者。死亡時画像診断（Ai） 無、解剖無。
- ・ 胃管挿入を拒否していたが、その後、経口摂取困難となったために本人が承諾して、栄養剤投与目的に胃管を挿入した。BMI 不明。
- ・ 嚥下機能低下、頸部後屈、挿入困難歴あり。
- ・ 胃管を自己抜去したため、看護師 A が胃管の挿入を2 回試みたが、挿入に難渋した。看護師 B が胃管を挿入、気泡音を確認し、栄養剤の投与を開始した。2 時間後に栄養剤の投与が完了し、その 20 分後に経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂） が低下した。X 線で胃管が右肺に挿入されていることが確認され、人工呼吸器管理などを行ったが、8 日後に死亡した。